

# Europe Indicators

発表日: 2023年11月13日(月)

## 欧州経済指標コメント: 7-9月期英国GDP速報

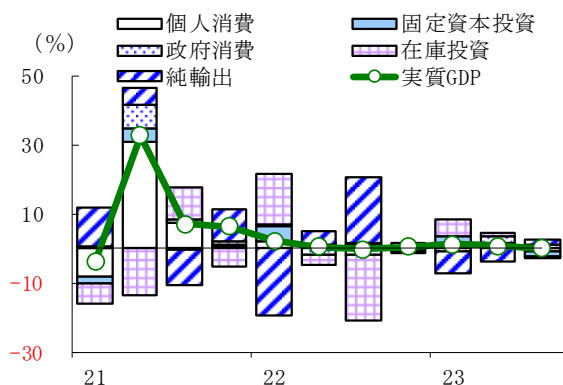
～PMI が示唆するほど悪くないが……～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 050-5474-7494)

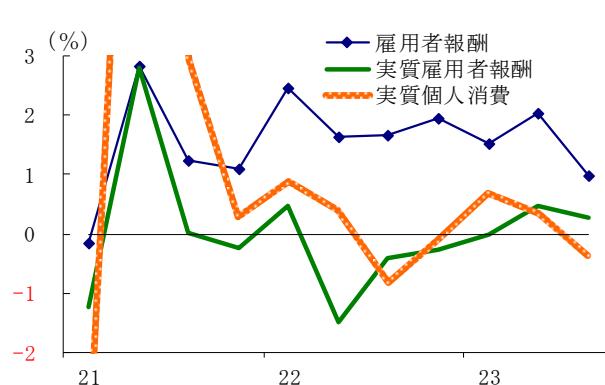
- 10日に発表された7～9月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比ゼロ%、同年率▲0.1%と、年率換算ベースでは昨年7～9月期以来のマイナス成長に再転落した。需要項目別の内訳は、個人消費（4～6月期：同+0.4%→7～9月期：同▲0.4%）、政府消費（同+2.5%→▲同0.5%）、設備投資（同+4.1%→同▲4.2%）、住宅投資（同▲2.3%→同▲1.3%）など内需が総崩れとなるなか、在庫の積み上がりと外需（同寄与度▲1.0%ポイント→同寄与度+0.4%ポイント）が成長を下支えした。外需の内訳は、輸出（同▲0.9%→同+0.5%）が持ち直したことに加えて、輸入（同+2.2%→同▲0.8%）が冷え込んだ。
- 同時に発表された月次GDPは、7月に前月比▲0.6%と大幅に落ち込んだ後、8月に同+0.1%、9月に同+0.2%と緩やかに持ち直した。9月は宿泊・外食サービス、専門サービス、健康・社会サービスなどが回復を牽引。観光需要の回復や好天、医療従事者のストライキの一服などが奏功した模様。7～9月期の月次パターンからは、10～12月期の月次GDPが前期比+0.2%ポイント、同年率+0.7%ポイントのゲタ（同期間中の月次GDPがゼロ成長にとどまった場合に達成可能な四半期成長率）を履いている。また、7～9月期のPMI総合指数は好不況の分岐点である50を割り込み、大幅なマイナス成長を示唆するが、落ち込みは軽微にとどまった。10月のPMIも景気後退水域にとどまるが、ゲタを履いていることもあり、10～12月期の成長率は年率1%前後の着地が予想される。
- 内需全般の不振、金融引き締め効果浸透、ストライキや長期療養者の増加による経済下押しは、先行きの景気停滞を示唆する。ブレグジット後の移民労働者不足や企業のコスト増も続いている。インフレ率にやや鈍化の兆しも広がってきたが、多くの欧米諸国と比べて高止まりが続く。数字のうえでは景気後退を回避しようが、全般に景気回復の足取りは鈍いことが予想される。

■英国の実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英統計局

■英国の雇用者報酬と個人消費



出所：英統計局

■英国GDP（前期比年率＜％＞、括弧内は寄与度＜％ポイント＞）

	名目 GDP	実質 GDP	内需					外需		
				個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫		輸出	輸入
21/10-12月期	10.8	6.2	(▲ 3.1)	1.1	4.4	2.2	(▲ 10.9)	(9.3)	46.8	8.8
22/1-3月期	8.4	2.1	(21.6)	3.6	3.1	25.0	(▲ 10.2)	(▲ 19.4)	▲ 27.7	42.7
22/4-6月期	9.0	0.4	(▲ 3.6)	1.7	▲ 7.9	0.3	(2.4)	(3.9)	24.2	7.7
22/7-9月期	5.7	▲ 0.3	(▲ 19.4)	▲ 3.3	3.0	5.1	(▲ 24.1)	(19.1)	52.1	▲ 12.7
22/10-12月期	9.2	0.5	(0.9)	▲ 0.3	▲ 2.9	0.1	(4.0)	(▲ 0.4)	0.7	1.9
23/1-3月期	8.7	1.3	(7.4)	2.7	▲ 4.6	10.4	(▲ 1.1)	(▲ 6.1)	▲ 23.3	▲ 6.9
23/4-6月期	10.6	0.8	(4.7)	1.4	10.5	3.3	(▲ 10.6)	(▲ 3.9)	▲ 3.6	9.2
23/7-9月期	5.8	▲ 0.1	(▲ 1.8)	▲ 1.4	▲ 1.9	▲ 7.8	(9.3)	(1.7)	2.2	▲ 3.1

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

